

ひょうたんに愛着を



1月11日(火)に養老小学校の3年生の児童が、大垣養老高校の瓢箪倶楽部秀吉の部員2人に教わりながら、町の特産品であるひょうたんに親しむための工作体験をしました。ひとつひとつ違うひょうたんの形を生かして、絵を描いたり穴を開けたりして作品を作っていました。児童たちは「ひょうたんの形がいびつて作業が大変だった」などと苦戦はしていましたが、楽しんで工作に取り組んでいました。

瓢箪倶楽部秀吉の伊藤春香さんは「みんな楽しそうに自分だけのオリジナルひょうたんを作ってくれていたの、この取り組みをしてよかったです」と満足そうでした。

住民が主役の"協働のまちづくり"



1月22日(土)に養老地域自治町民会議の設立総会が開催され、設立が承認されたため、25日(火)に認定証を交付しました。同自治町民会議は、上多度、笠郷、広幡に続いて4地区目の設立となります。現在、住民の皆さまと町とが地域の課題に対して共に取り組み、将来にわたって安心して暮らせる地域をつくるため、町内11地区に地域自治町民会議の設立を進めています。

同自治町民会議の吉田恵会長(右写真下段左)は「地域課題の解決にひとつひとつ取り組んでいき、安心・安全で住みよい養老地域づくりを実践していきたい」と、よりよい地域づくりへ意気込みを話しました。

宝くじ助成金で整備しました



多芸西部地区区長会では、宝くじの社会貢献事業であるコミュニティ助成事業(宝くじの収益金を財源として実施)を活用し、夏まつりで使用する音響設備や照明などを整備しました。